

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<43週> 基幹病院定点よりマイコプラズマ肺炎の報告が多くなっている / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症> 第43週の報告患者総数は74



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Verotoxin産生性大腸菌 / 手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報
P.6-7

*Vibrio vulnificus*感染の2症例



海外感染症情報
P.8-9

ウガンダでのエボラ出血熱流行 更新 / 中米でのデング熱流行 / 他



感染症の話
P.10-13

Bウイルス病
ニホンザルなどのマカク属サルを自然宿主とし、サルとの直接的接触やヒトからヒトへの感染例もある



読者のコーナー
P.14



グラフ総覧(43週)
P.15-21

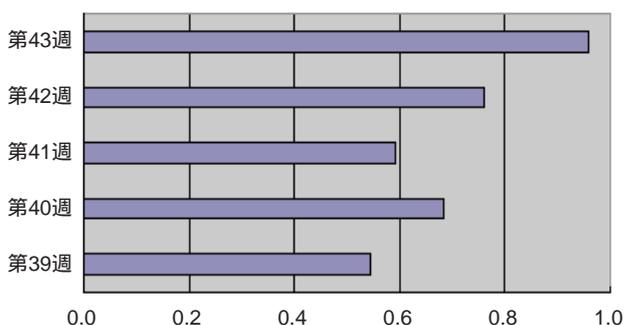


43週のデータ
P.22-29

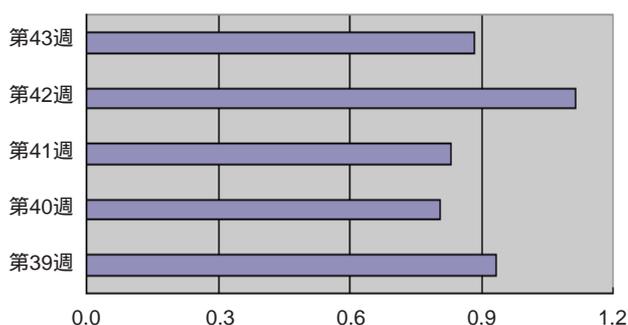
最近の注目疾患-5週間の動き

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2週続けて定点当たり報告数が増加し、ここ5週では全体として増加傾向にある。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より減少した。流行性角結膜炎の定点当たり報告数はほぼ前週と変わらない。水痘の定点当たり報告数は増加傾向にある。インフルエンザの報告数は全国的にまだ少なく、明らかな増加傾向は観察されていない。

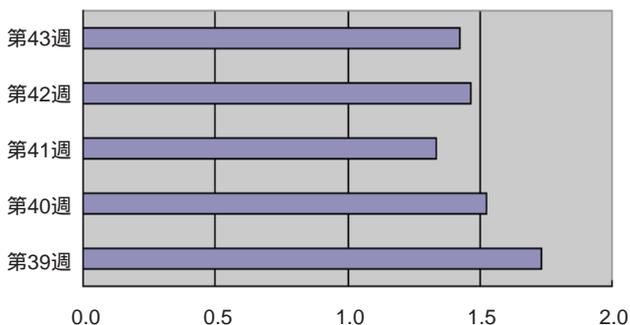
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



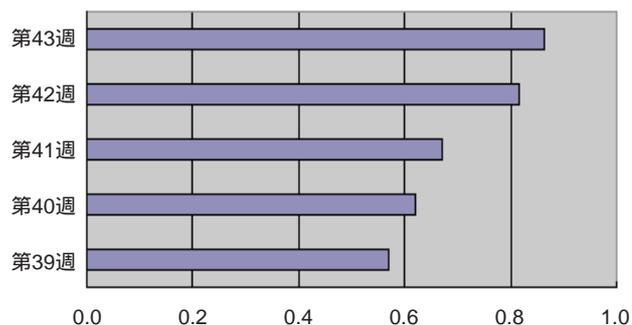
流行性耳下腺炎



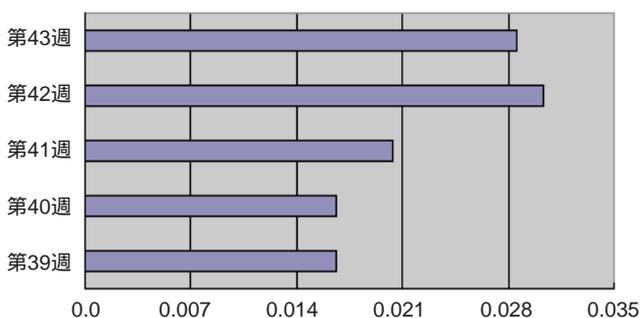
流行性角結膜炎



水痘



インフルエンザ



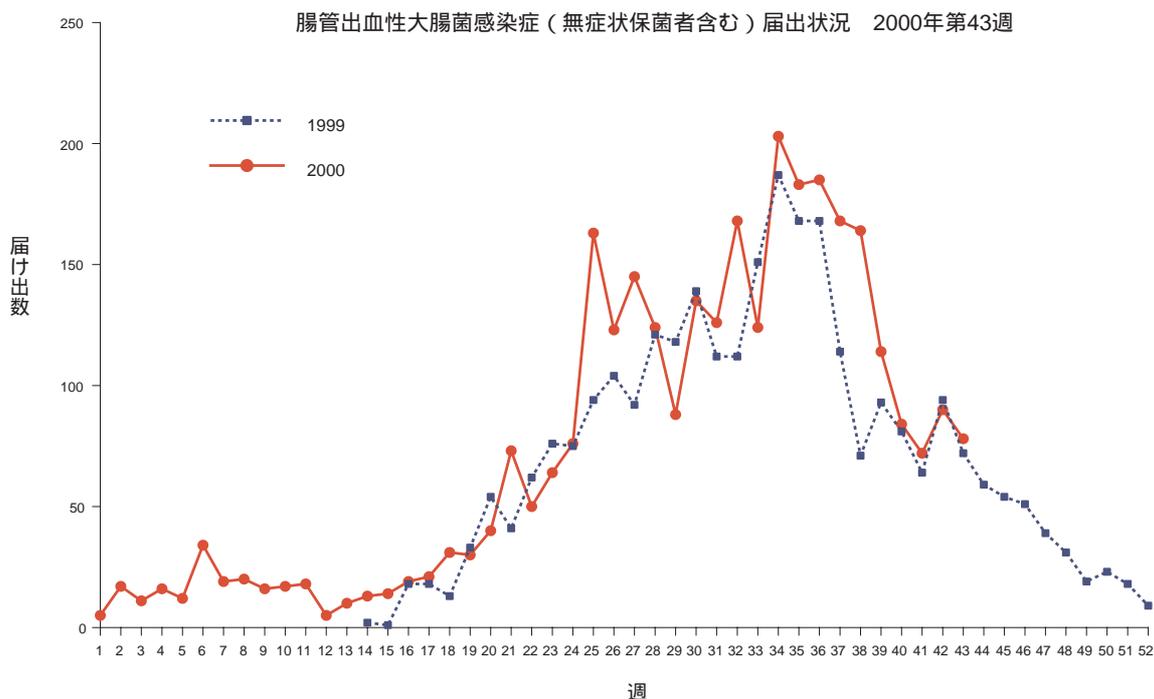
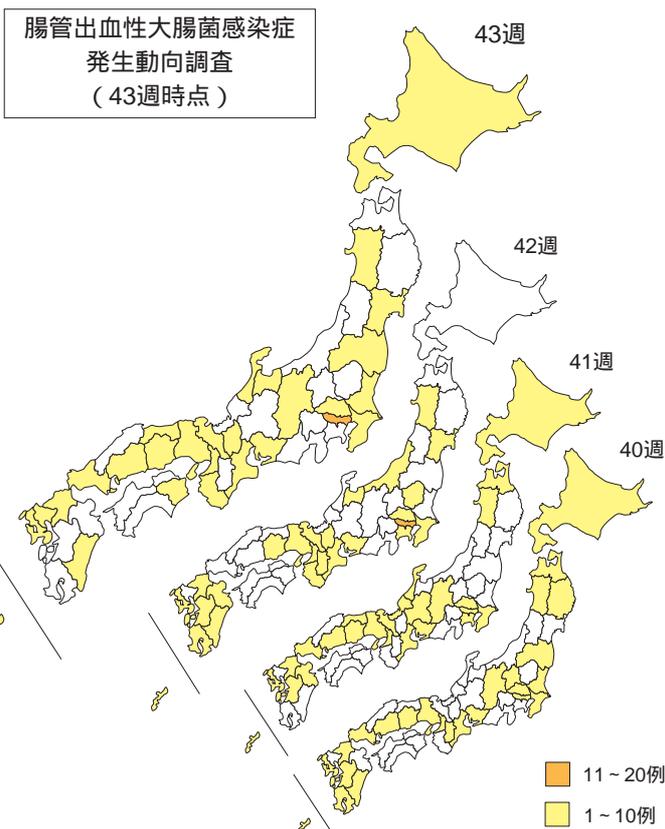
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2000年第43週(10月23日 ~ 10月29日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は74であった。東京都からの報告のうち5例は1保育園内の集団感染事例である(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は3,158となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で累積報告数が多い。





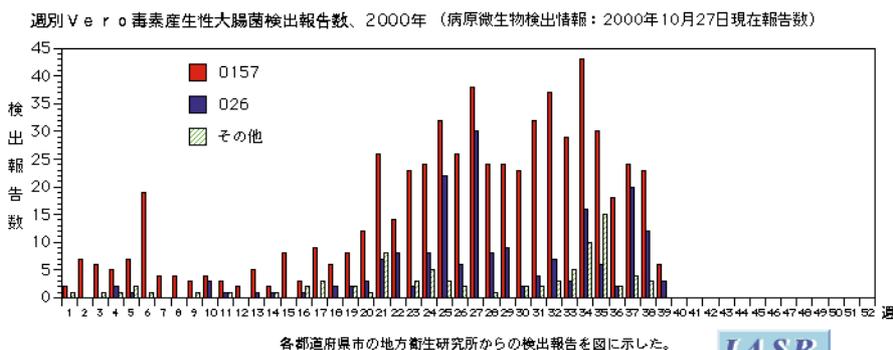
病原体情報

(2000年11月1日現在報告分)

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.gov/jiasr/index-j.html>)からの引用です。

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が622件、O26が197件である。第39週以降、O157は札幌市、横須賀市、山梨県、岐阜県、大阪府、愛媛県各1の報告であり、O26は大阪府3、静岡県1の報告である。

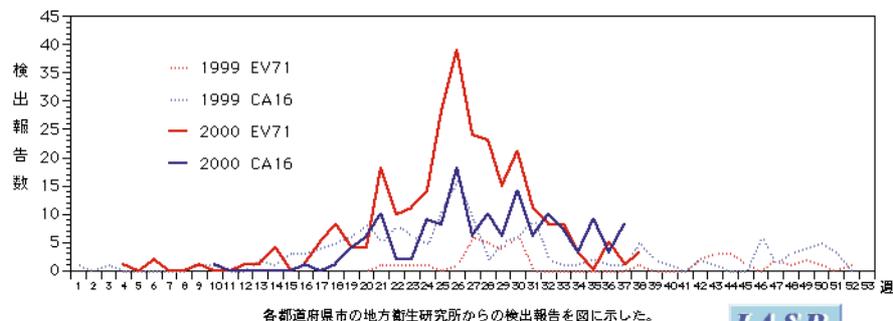


Infectious Agents Surveillance Report

手足口病患者から分離されたウイルス

エンテロウイルス71型(EV71)の分離は212件報告され、熊本県(35)、愛媛県(33)、神奈川県(25)、愛知県(14)からの報告が多い。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は138件、CA10は27件の報告である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較(1999年、2000年)
(病原微生物検出情報:2000年10月27日現在報告数)



Infectious Agents Surveillance Report

ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス

A群コクサッキーウイルス(CA)185件(10型68、4型49、6型37、2型15、5型7、9型4、8型2、3型1、7型1、16型1)の分離が報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス

エコーウイルス(E)168件(25型46、9型42、3型21、11型20、30型14、6型13、18型6、21型3、17型2、4型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)91件(3型30、5型24、4型17、1型14、2型4、6型2)、エンテロウイルス71型(EV71)46件、ムンプスウイルス33件、CA16件(9型7、10型6、2型1、4型1、16型1)の分離が報告されている。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

アデノウイルス(Ad)128件(3型73、2型27、1型18、5型3、4型2、6型2、7型2、19型1)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎から分離されたウイルス

アデノウイルス47件(3型11、4型9、8型8、37型7、11型4、19型3、2型2、1型1、6型1、7型1)の分離が報告されている。



急激な経過を示した *Vibrio vulnificus* 感染症の1例 - 千葉県

Vibrio vulnificus 感染症は、肝硬変などの基礎疾患を有する患者が、夏期に生の魚介類を摂取することや海水中で創部から感染する日和見感染症である。今回我々は、左肘部腫脹を訴えショック状態となった患者皮下組織より *V. vulnificus* を分離した症例を経験したので報告する。

症例：患者は54歳、男性。8年前にC型肝炎と診断され肝硬変となる。2000(平成12)年6月17日、釣った魚を生食、翌日、悪寒、発熱、左肘部腫脹、疼痛により近医に入院。当初虫刺されの跡があったことから、虫刺されによるアナフィラキシーショックと考え処置。その後も左肘部腫脹進展、ショック状態となり当センターへ転院。

入院時、左上肢から左肩にかけて腫脹、皮下出血、水疱があり、乏尿であった。検査所見では、代謝性アシドーシス、血圧低下、白血球減少、貧血、血小板減少、白血球分画左方移動、CRP高値、低蛋白血症、肝腎機能異常、CPK高値を認めた。

臨床経過：入院時の状況から大量輸液実施したが状態は改善せず、人工呼吸、カテコラミンによる循環補助実施。左上肢X線写真では皮下ガス像を認めなかった。その後、代謝性アシドーシスわずかに改善したが、筋肉壊死によるものと考えられる高K血症となり心停止、心肺蘇生法にて自己心拍再開。左上肢阻血のため減張切開を施行。高K血症に対し持続血液透析、カルシウム製剤投与およびアンピシリン(ABPC)2g投与を行ったが、6月21日、多臓器不全、ショックから回復できず永眠された。

検査法：6月20日に提出された皮膚組織液および皮下組織のグラム染色では、陰性のやや湾曲した桿菌が見られ、チョコレート寒天培地に直径4mm程度の灰白色、正円、S型のコロニーを少数認めた。簡易同定キットによる生化学的性状から *V. vulnificus* と同定した。また、好塩性試験では3%のみで発育した。さらに、千葉県衛生研究所にPCRを依頼し *V. vulnificus* であることを確認した。薬剤感受性検査では、ABPC、セファゾリン、イミペネム/シラスタチン、ゲンタマイシン、ミノサイクリンなどを実施したが、いずれの抗生剤も良好な感受性を示した。

考察：本疾患は本邦では1999年までに100例あまりが西日本を中心に報告されており、経過は急激で4割が3日以内に死亡する劇症型を呈する。しかし、健常人に発症することは極めて稀であり、肝硬変やヘモクロマトーシス患者などでの発症が殆どである。

本疾患では特徴的な皮膚病変を示すことから、救命率を上げるためにも、速やかな皮膚病変部滲出液のグラム染色や血液培養を実施し、早期診断および治療を心がけなければならない。

千葉県救急医療センター検査科

佐藤正一 三上昌章 菊地広子 金子 恵 鈴木幸子 東條美由紀

小笠原英樹 丸 孝夫

千葉県救急医療センター診療部

高橋良誌 荒木雅彦

千葉県衛生研究所

横山栄二 小岩井健司

(IASR11月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

Vibrio vulnificusによる死亡例 - 新潟県

発病後1日半、入院後約12時間で死亡した敗血症の60歳男性の血液培養から、*Vibrio vulnificus* が検出されたので概要を報告する。

臨床経過: 2000年9月21日夕方から下腹痛、軟便、発熱あり、翌日朝に救急車で来院した。来院時、意識は明瞭で下腹部の疼痛を訴え、軽度膨隆あり、筋性防御なし、腸鳴弱く、全身に淡い発赤調の小皮疹が多発していた。血圧104/80、脈拍110/分・整、体温38.6。血算上、白血球5,000/ μ l、血小板3.5万/ μ lと血小板の著しい減少が認められ、腹部単純写真で鏡面像はないものの小腸ガスが多く、腹部エコーでは肝表面の不整と少量の腹水が認められた。何らかの感染症や悪性腫瘍による腸管運動抑制、敗血症、汎血管内凝固の状態と考へて入院とした。抗生物質を使用する前に便培養と血液培養を提出した。皮膚や粘膜の状態は高度の脱水所見を疑わせたため、多量の補液を行ったが尿量は40～50mlしか得られず、血圧は一時120～130/70～80に上昇したが、補液量を少なくすると血圧も低下した。抗生物質として、テトラサイクリン系とセフェム系を使用したが、発熱は続き、午後になると多呼吸となり呼吸困難を訴えた。血液ガスではpH 7.229、PaO₂ 95.0mmHg、PaCO₂ 21.9mmHg、HCO₃⁻ 9.1mmol/lと高度の代謝性アシドーシスを示しており、血算再検では白血球700/ μ l、血小板1.5万/ μ lと重篤化していた。アシドーシスの補正をし、エンドトキシン吸着等の治療も準備していたが、夕方には、大量のカテコラミンを使用しても血圧が上昇せず、意識が混濁し自発呼吸が困難となり、気管内挿管を行った。この頃には四肢の冷感と皮疹の癒合、一部水疱化が認められ、急速に循環不全が進み23時に心停止し、死亡した。

培養結果と原因について: 後日、入院時の血液培養から*V. vulnificus* が検出されたが、便培養からは常在菌のみで有意な病原菌は検出されなかった。家族からの問診では、発症前日の9月20日の夕食時、妻と三女とともに生ガキを食べたという事実があったが、本人以外に全く症状は出現しなかった。食品の検査はできなかった。

V. vulnificus は、腸炎を起こすことは少なく、腸壁を通過し血流に容易に侵入する。生あるいは半生の魚介類を食して12時間～3日後に急激な悪寒戦慄で発症し、急速にショックに至る。菌血症の50%以上、低血圧発症患者の90%以上は死亡すると言われ、特に慢性肝疾患やアルコール依存症、免疫不全者では重症化するとされる。

急激な経過をとり重症化、あるいは死に至る可能性のある病原体として、*V. vulnificus* には今後とも注意が必要である。

新潟県立六日町病院

岸本秀文 井口清太郎 関谷寿子 城田信子 大野康彦

(IASR11月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



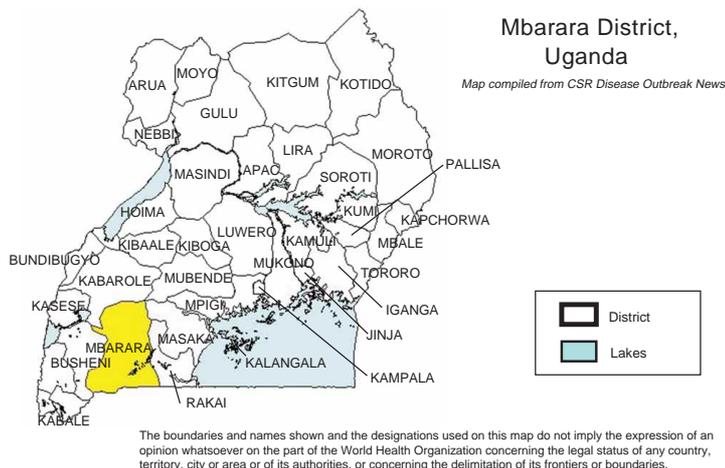
海外感染症情報

ウガンダでのエボラ出血熱流行 更新

WHO/CSR 2000年10月30日、11月2日、3日、5日

11月5日現在、ウガンダ保健省は死亡者89例を含む280例(累計)のエボラ出血熱患者を報告した。ウガンダ南西部のMbarara地区で、Gulu地区以外では初めてのエボラ出血熱確定診断例1例が報告された。患者検体はCDCがGuluに設置した検査室で検査された。ウガンダ保健省はGulu地区でのエボラ出血熱調査のために専門家を求めている。CDCや国境無き医師団を含むWHOの率いるチームが、報告された症例の調査のためMbarara地区に向かっている。

WHOはウガンダと他国・地域間の旅行や貿易に関して、いかなる特別な制限も勧告していない。多くの国では旅行や貿易に関して通常の対応を行っているし、エボラ出血熱に関して特別な制限は勧告されていない。これまで報告した参加国に加えて、日本政府がウガンダの流行抑制を支援するために、国立感染症研究所と仙台検疫所から2人の医師を派遣した。2人はGulu地区に到着し患者を管理するチームで働いている。



(WHOホームページより改編)

中米での Dengue 熱流行

Health Canada/Information for travellers 2000年10月30日

数カ月間、Health Canadaは中央アメリカで発生が知られている Dengue 熱の活動性を監視している。今回、数カ国で Dengue 熱と Dengue 出血熱の患者が増加し、公衆衛生上の問題となり、人口密集地域で蚊の産卵場所を除去する対策が取られている。

エルサルバドル

エルサルバドル政府は Dengue 熱流行のため全国に非常事態を宣言した。9月5日現在、政府は Dengue 出血熱患者168例および12人の死亡を含む Dengue 熱患者1,527例が発生したことを確認した。血清型はすべて2型であった。

ホンジュラス

ホンジュラス政府は Dengue 熱流行のため全国に注意報を発令した。今年9月5日までに、政府当局は Dengue 出血熱患者8例を含む Dengue 熱患者3,559例を報告した。血清型の確認はされていない。

ドミニカ共和国

ドミニカ共和国政府は国内での Dengue 熱の報告数の増加を確認した。9月5日現在、Dengue 出血熱患者14例および5人の死亡を含む Dengue 熱患者5,663例が報告された。Dengue の4つの血清型すべてが報告されている。

コスタリカ

コスタリカ政府はデング熱患者の急激な増加を確認した。9月5日現在、デング熱患者5,663例が報告された。デング出血熱患者および死亡の報告はない。血清型の確認はされていない。

グアテマラ

9月5日現在、グアテマラ政府はデング出血熱患者4例および1人の死亡を含むデング熱患者4,221例を報告した。

南アフリカのコレラ流行 更新

WHO/CSR 2000年11月3日

2000年11月2日現在、Kwazulu-Natal保健当局は、2000年8月中旬から始まった流行で、4,270人の患者と32人の死亡者を報告した。10月26日に報告された33人の死亡者のうち2人の死亡原因がコレラではなかったことが明らかになり、以後に、1人の死亡者の報告が追加された。毎日報告されている患者数の減少傾向が続いている。

Kwazulu-Natalでの流行は次の地域で発生している: NgwelezaneとEmpangeniを含むLower Umfolozi地方、Eshowe/Nkandla地区、Durban、KwaDukuza/Stanger地区、JoziniとUguRegion/South Coastである。

流行地での保健教育、患者治療、サーベイランスや監視を含むコレラの抑制を行うことに加えて、政府当局、非政府組織と地域当局との間で、将来コレラの流行が起こりやすい地域にどのようにして安全な衛生状態と飲料水が維持できるかを検討するために議論が行われている。



感染症の話

(注)今週の感染症の話は編集の都合上、前号と同じものを掲載しました。-IDWR編集委員長-

Bウイルス病

1933年にポリオ研究者がアカゲザルに咬まれ、脳脊髄炎を発症して死亡した。神経組織よりウイルスが分離され、患者の名前にちなみ、Bウイルスと命名された。正式名称はCercopithecine herpesvirus(CHV-1)であるが、Bウイルス、ヘルペスB、Herpes simiae、Herpesvirus simiaeとも呼ばれる。なお、Cercopithecusとはオナガザルのことである。Bウイルスはニホンザルなどのマカク属サルを自然宿主とし、この宿主では単純疱疹類似の疾患を引き起こし、致死感染は例外的である。しかし、ヒトに感染すると、致命的な疾患(Bウイルス病)を引き起こす。ニホンザル等との接触の機会を有している場合、注意すべき感染症である。

疫学

本邦での発症例はこれまでのところ報告されていないが、世界的には40例を越しており、おもに米国における発症例である。実際には見落とされている例が多いと考えられる。罹患者の大部分は研究者あるいはサル飼育施設の従業者で、日常の外来診療で遭遇するような疾患ではない。

マカク属サルとの直接的接触により感染する。感染ルートはサルによる咬傷・擦過症が大部分であるが、本症の患者から看護者に感染したという、ヒトからヒトへの感染例も報告されている。

アジアにいるアカゲザル、カニクイザル、日本ザル(*Macaca fuscata*)、台湾ザル(*Macaca cyclopis*)などのマカク属の旧世界サルでは、半数以上が抗体陽性であり、ウイルスは体内に潜伏感染している。ヒトの単純ヘルペスウイルスのように神経節に潜伏し、再活性化することにより感染源となる。サル間では性行為を含めた水平感染により伝播し、幼ザルは抗体陰性であることが多い。



カニクイザル(cynomolgus monkey)

病原体

CHV-1はヒトの単純ヘルペスウイルスと同じアルファヘルペスウイルスに分類され、直径160-180nmの粒子でエンベロープを有する。ウイルス分離にはVero細胞やHeLa細胞が用いられる。25cm²のフラスコ程度を使用した少量のウイルス分離はP3レベルの実験室で行うが、大量培養はP4レベルのバイオハザード封じ込め施設で行う。ウイルス増殖は非常に早く、HSVに類似した細胞変性効果(核内封入体と多核巨細胞)が生じる。ウイルスは4℃では安定であるが、40℃を越す条件では失活しやすく、また有機溶剤で容易に感染性を喪失する。

臨床症状

唾液等に感染性ウイルスが排出されているサルによる咬傷が主たる感染ルートである。ウイルスが潜伏状態にあるサルの咬傷では感染しない。咬傷後、局所でウイルスが増殖し、末梢神経

を経て、中枢神経組織に到達し、脊髄、延髄、橋と徐々に感染し、横断性脊髄炎、上行性脊髄炎、脳脊髄炎を来す。

これらの病態発生に相応して臨床症状が経時的に現れる(表)。潜伏期間は咬傷後早い場合は2日で、2週から5週以内に臨床症状が出現する。

診断上最も重要なことは、実験用あるいは動物園あるいはペットのサルとの接触に関する病歴の入手である。感染経路は咬傷あるいは擦過傷であることが多く、サルに使用した注射針の針刺し、培養に使用したガラス器具による外傷によっても感染する。

詳細に臨床症状が報告されている第1例(米国例)の臨床症状を以下に提示する。

医師(B)が実験中に外見上健康なサルにより手の咬傷を受けた。3日後咬傷部の紅斑、リンパ管炎、所属リンパ節腫大が生じた。6日目に発熱、10日目に神経症状(上行性麻痺)が出現し、脳脊髄液の単核細胞上昇(112/mm³)、蛋白増加が認められた。外傷部皮膚には水疱も生じた。17日目に痙攣・昏睡状態となり、呼吸不全(呼吸筋麻痺)にて死亡した。剖検時、神経系組織には急性横断性脊髄炎と、前頭葉、橋、延髄にも炎症性変化が認められた。

表 Bウイルス病の臨床症状 (Holmes GP et al. 1995に準拠)

早期症状	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷部位周囲の水疱あるいは潰瘍 2. 接触部の激痛あるいは掻痒感 3. 所属リンパ節腫大
中期症状	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発熱 2. 接触部の感覚異常 3. 接触部側の筋力低下あるいは麻痺 4. 結膜炎 5. しゃっくり(吃逆)の持続
晚期症状	<ol style="list-style-type: none"> 1. 副鼻腔炎 2. 項部硬直 3. 24時間以上の頭痛 4. 悪心・嘔吐 5. 脳幹部症状：複視、構語障害、眩暈、失調症、交差性麻痺、交差性知覚障害、脳神経麻痺 6. 意識障害 7. 脳炎ならびに中枢神経症状

病原診断

1. ウイルス分離：ウイルス分離が最も信頼できる検査法である。少量サイズの培養細胞を用いたウイルス分離をP3実験室において行う(国立感染症研究所の規定)。ウイルス分離を行うための検体は咽頭拭い液、脳脊髄液、サルによる咬傷あるいは擦過部位の拭い液あるいは生検組織である。

2. ウイルスゲノムのPCRによる検出：PCRを用いたウイルスゲノム検出法が報告されている。この場合、近縁のHSVとの区別が問題となる。制限酵素切断様式の違いあるいは塩基配列の解析が必要となる。また、咬傷を加えたサルの検索も行う。

3. 血清抗体の検出: CHV-1はHSVと抗原性が共通する。CHV-1抗体陽性サルの血清はHSVに対する高い中和活性を有している。一方、HSVに対する抗体を有したヒト血清はCHV-1に対しての中和活性がある。この抗原交差性のため、両者の血清学的鑑別は困難である。この区別が可能なドットプロット法が開発され、CHV-1抗体陽性のニホンザルが確認された。簡便法として、スライド上にCHV-1感染細胞を固定・不活化し、抗原抗体反応を行い、抗体を検出する蛍光抗体法がある。この方法ではHSVとCHV-1それぞれに対する抗体の区別は困難で、HSV抗体陽性患者のCHV-1抗体の検出はできない。

4. 剖検時の病理所見として、中枢神経組織の出血、壊死、浮腫、血管周囲の単核細胞浸潤がみられる。Cowdry A型封入体は見だしにくい。感染部位の皮膚・粘膜の生検組織には多核巨細胞が出現し、ウイルスゲノムも検出できる。

治療・予防

症例数が少なく、確立していないが、アシクロビルあるいはガンシクロビルが有効であり、予防・治療にこれらの投与が推奨されている。治療量は体重1kgあたり10-15mgのアシクロビルを8時間ごとに最低14日間静注、さらに、神経症状がみられた場合にはガンシクロビルを体重1kgあたり5mgを12時間ごとに14日間以上投与する。静注終了後、経口投与も考慮する。

患者の外傷部あるいは結膜、唾液からウイルスが分離されることより、治療においては、手袋ならびにマスク、眼鏡等の粘膜部保護が必要である。ヒト-ヒト間の感染例は現在までに1例報告されている。

サルにより咬傷を受けた場合、傷口をできるだけ早く15分以上流水あるいは石鹼水により洗浄する。次亜塩素酸による洗浄を薦める報告もある。結膜の場合は流水あるいは滅菌水を用いる。アシクロビル(成人量800mg)の経口投与も考慮し、その場合、外傷部からのウイルス分離、ウイルスゲノム検出、外傷を加えたサルの抗体検査、サルの唾液、結膜擦過、外陰部擦過にウイルスゲノムが存在するかどうかの解析結果がでるまで投与を続ける。結果が陽性である場合、予防投与は14日間行う。なお、外傷部位の検体採取、患者の血清採取、咬傷を加えたサルのウイルス学的解析ならびに血清の採取は必ず外傷部あるいは曝露粘膜の洗浄後に行う。患者ならびに患者の家族には表に示したBウイルス病の臨床症状を説明し、その兆候が現れた場合の連絡の必要性を指示する。

研究者ならびにサル飼育施設従業者での取り扱い事故の予防について、米国エモリー大学とCDCではワーキンググループを形成し、ガイドラインを発表している(Holmes GP et al. Guidelines for the prevention and treatment of B-virus infections in exposed persons. *Clinical Infectious Diseases* 1995; 20: 421-39)。

ワクチンはない。

感染症法の中でのBウイルス病の取り扱い

Bウイルス病は4類感染症の全数届け出疾患に定められており、本症であることを診断した医師は、診断から7日以内に最寄りの保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は以下の通りとなっている(平成11年3月30日、厚生省結核感染症課長通知)。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

- ・病原体の検出
例: 臨床検体(咽頭ぬぐい液、脳脊髄液、咬傷部、擦過部位の生検組織など)からのウイルス分離と中和試験による確認など
- ・病原体遺伝子の検出
例: PCR法など
- ・病原体に対する抗体の検出
例: ドットプロット法、ELISA法など
(ヒトではHSV-1とBウイルスの抗原性は交差するので、従来の抗原抗体反応系(免疫蛍光等)は使用できない)

《 備 考 》

外傷部、結膜、唾液からウイルスが分離されることから、これらの部位の治療の際には必ず手袋をする。またマスク、眼鏡等により粘膜を保護する。

(国立感染症研究所感染病理部 岩崎琢也)

感染症の話は、感染症法に規定された疾患の解説を中心にしてこれまで行ってきましたが、コクシジオイデス症を除いた全疾患についての掲載がこれで終了いたします。

次回からは、食中毒関連病原体、食品媒介寄生虫疾患、などを中心としたシリーズを開始する予定となっております。

なおこれまでに掲載された疾患については、感染症情報センターホームページ IDWR HTML版(<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>)「感染症の話」で見ることができます。

感染症週報編集委員長 岡部信彦



読者のコーナー

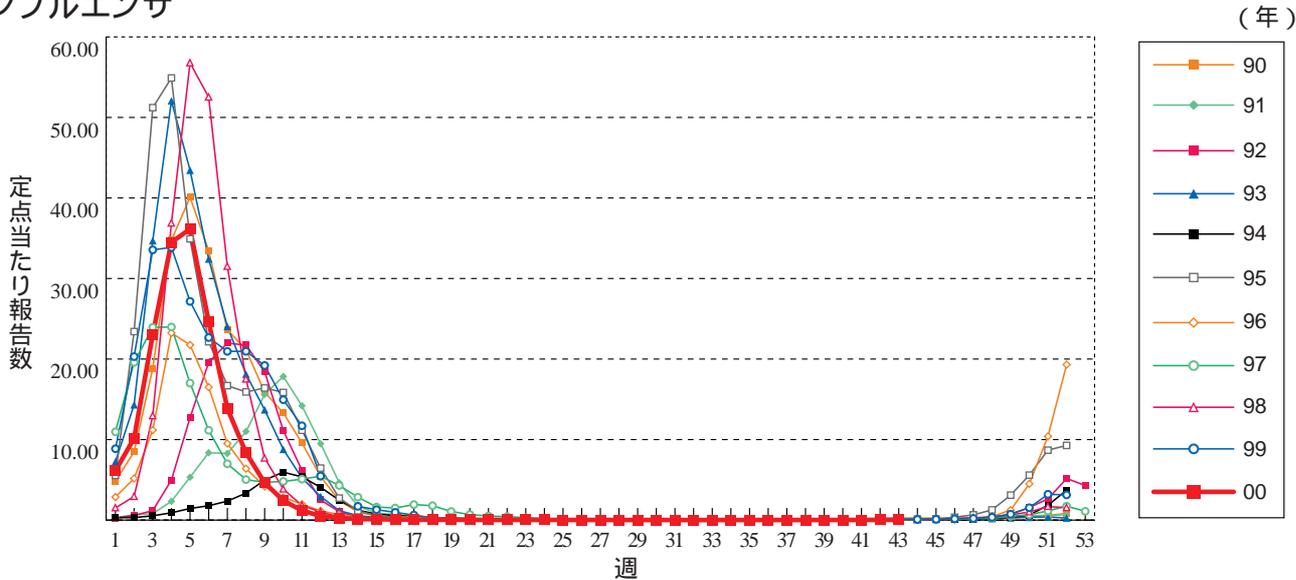
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

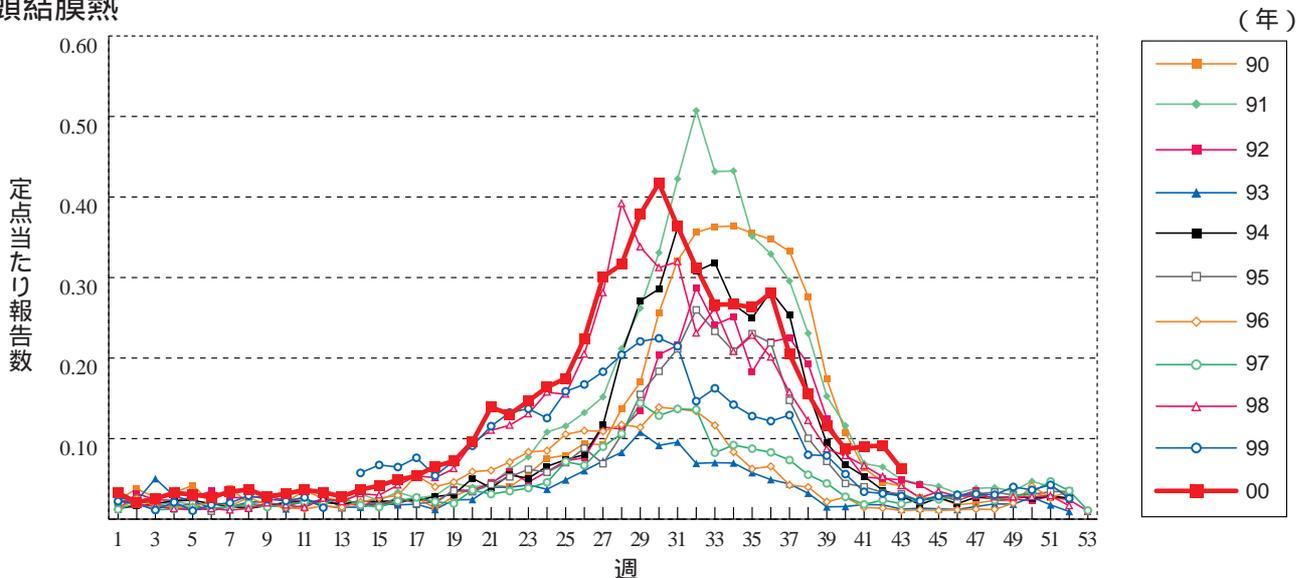


グラフ総覧(43週)

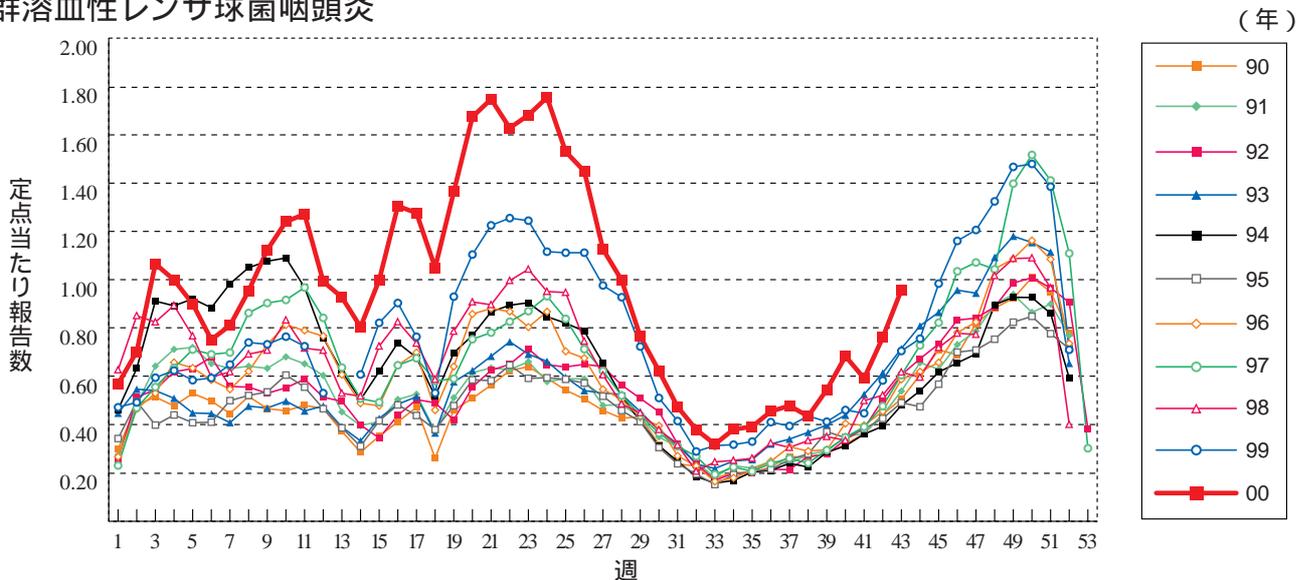
インフルエンザ



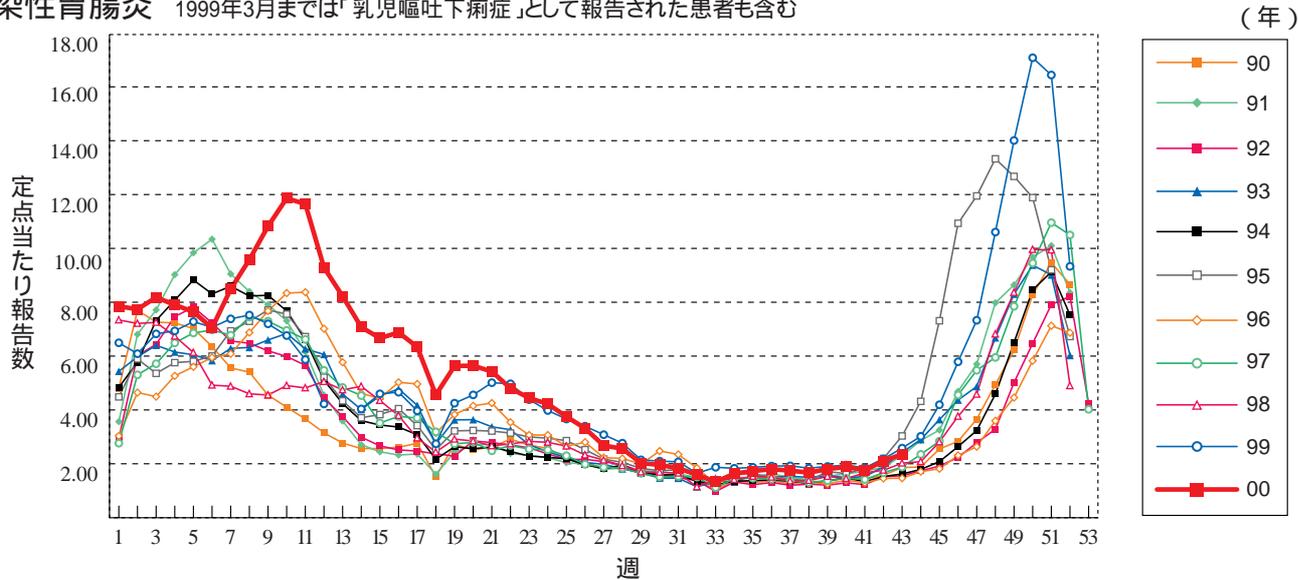
咽頭結膜熱



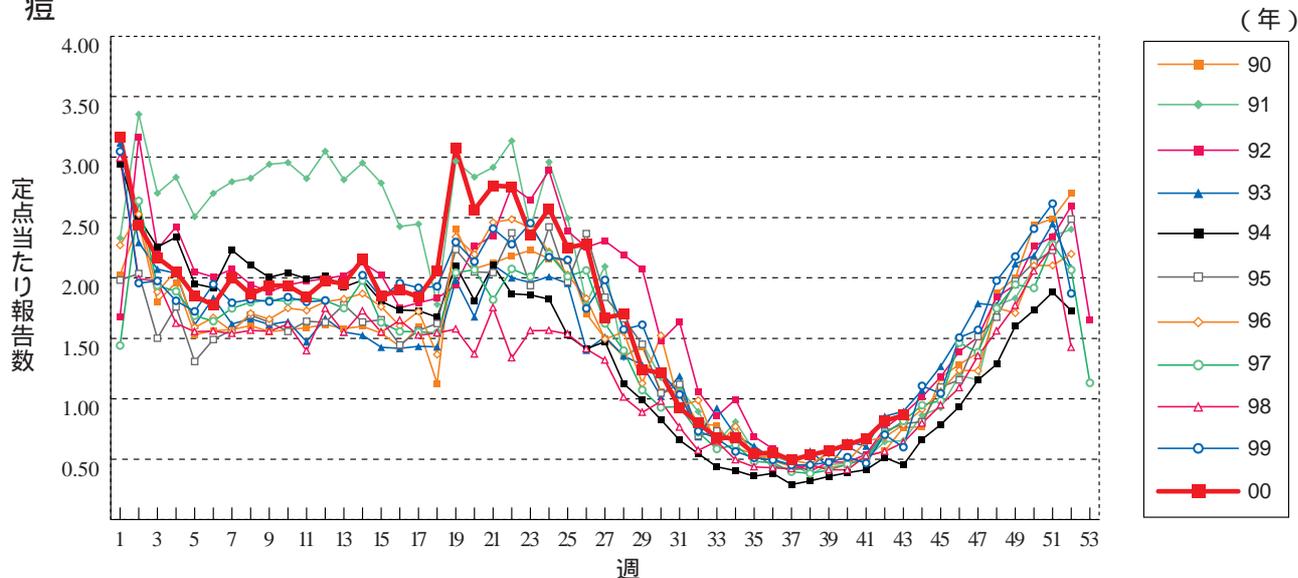
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



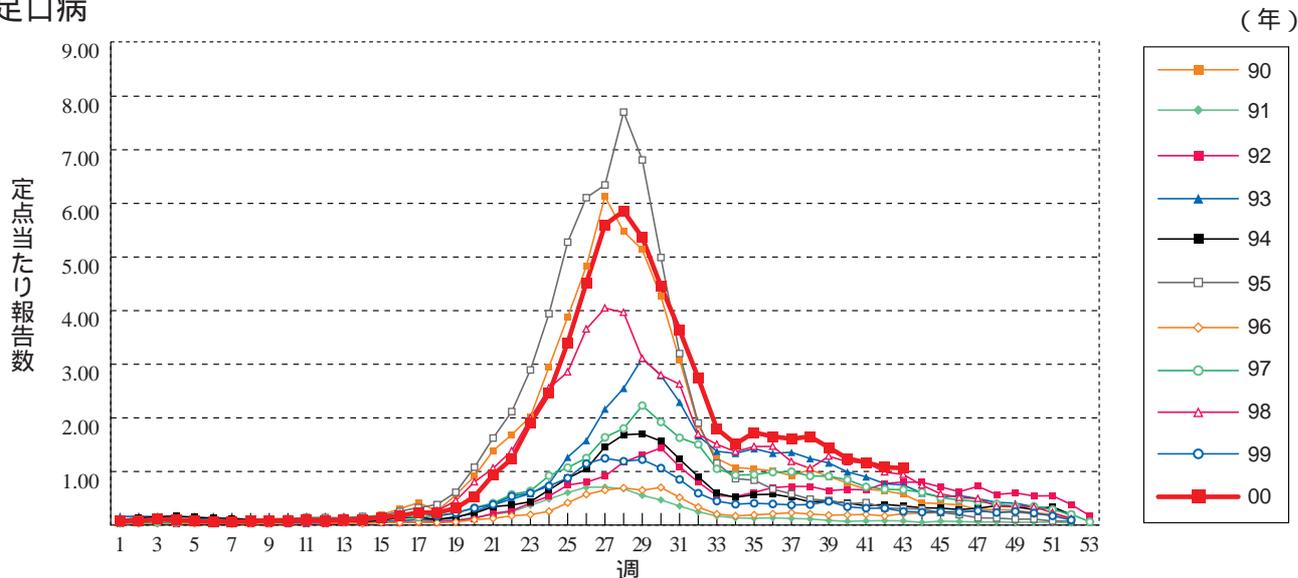
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



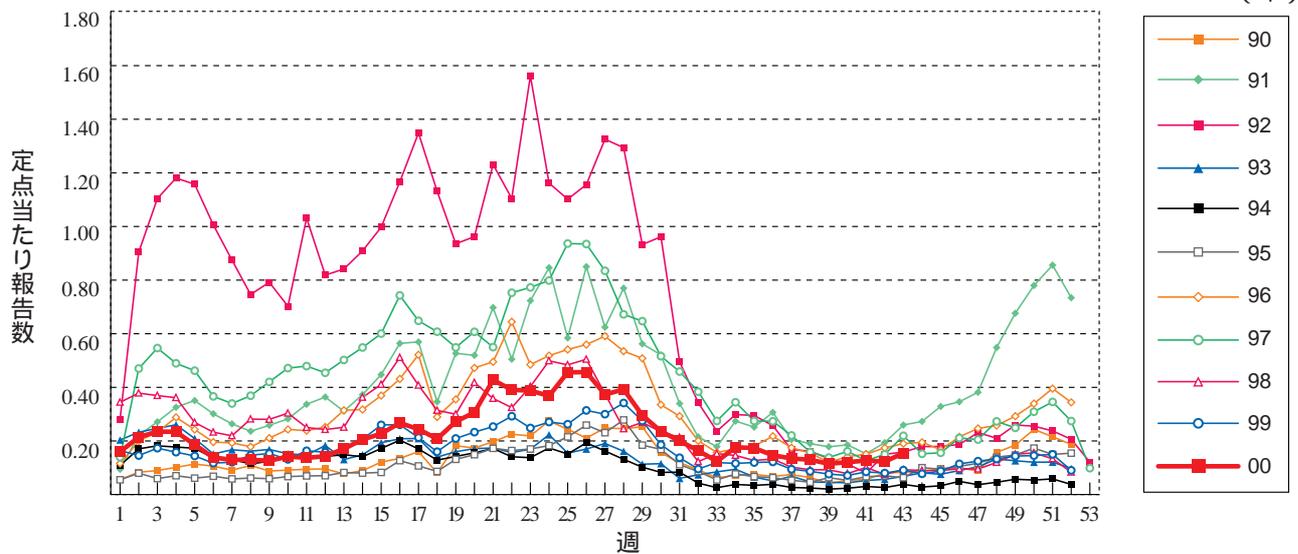
水痘



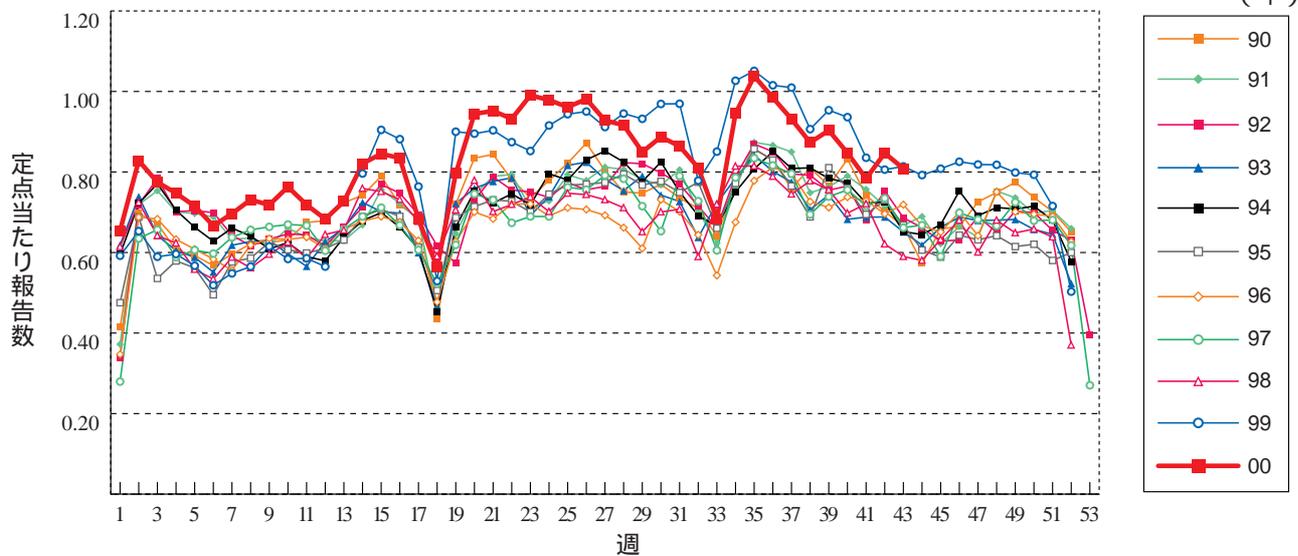
手足口病



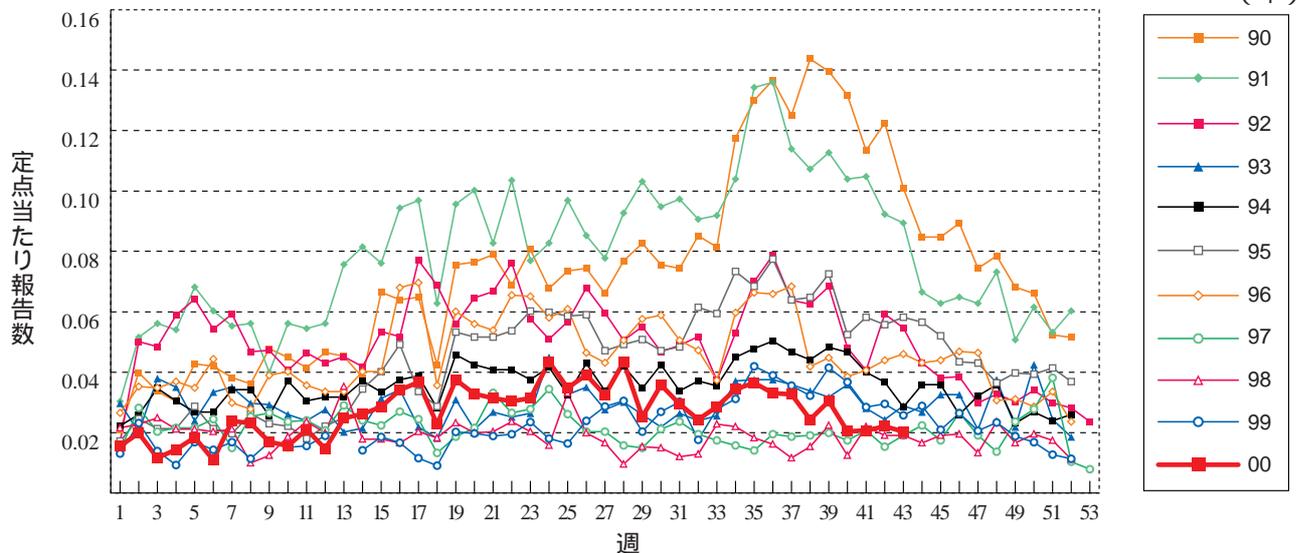
伝染性紅斑



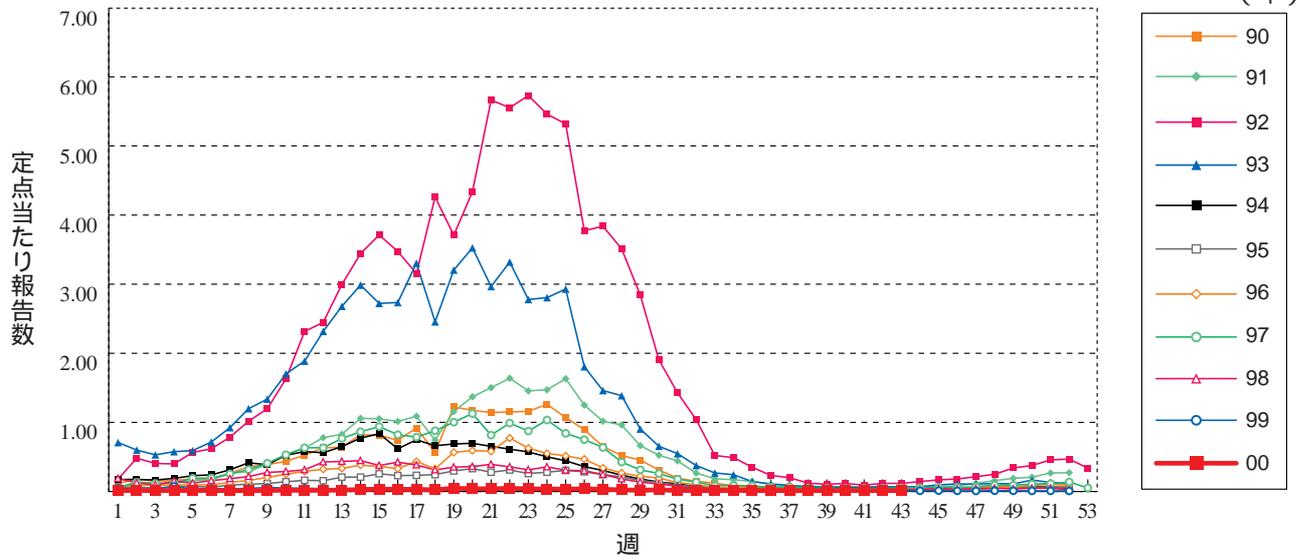
突発性発疹



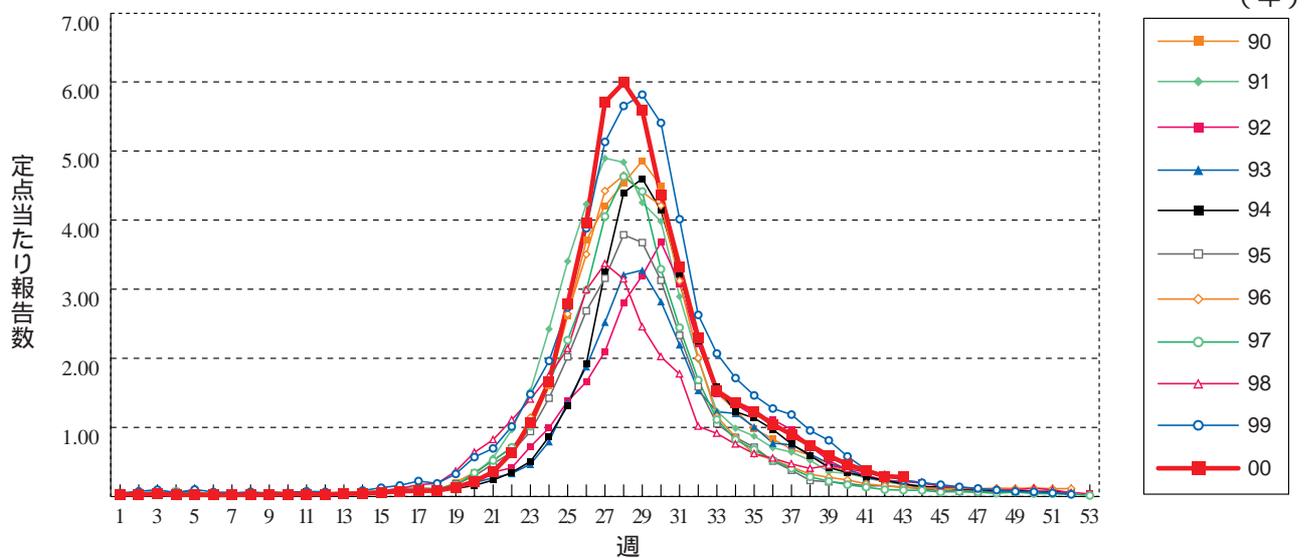
百日咳



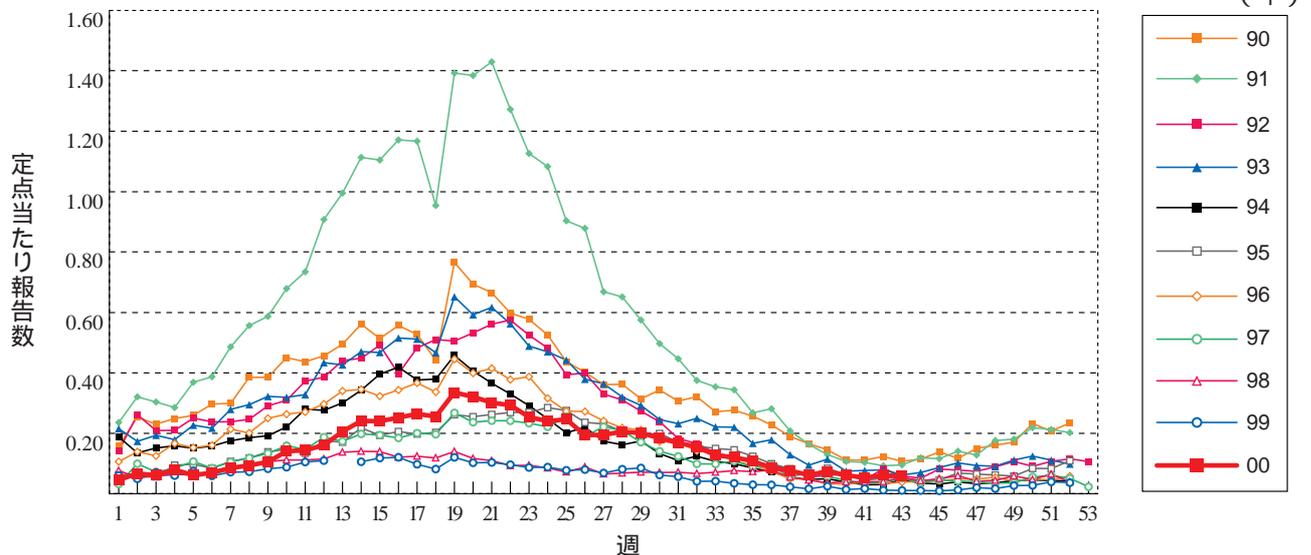
風 疹



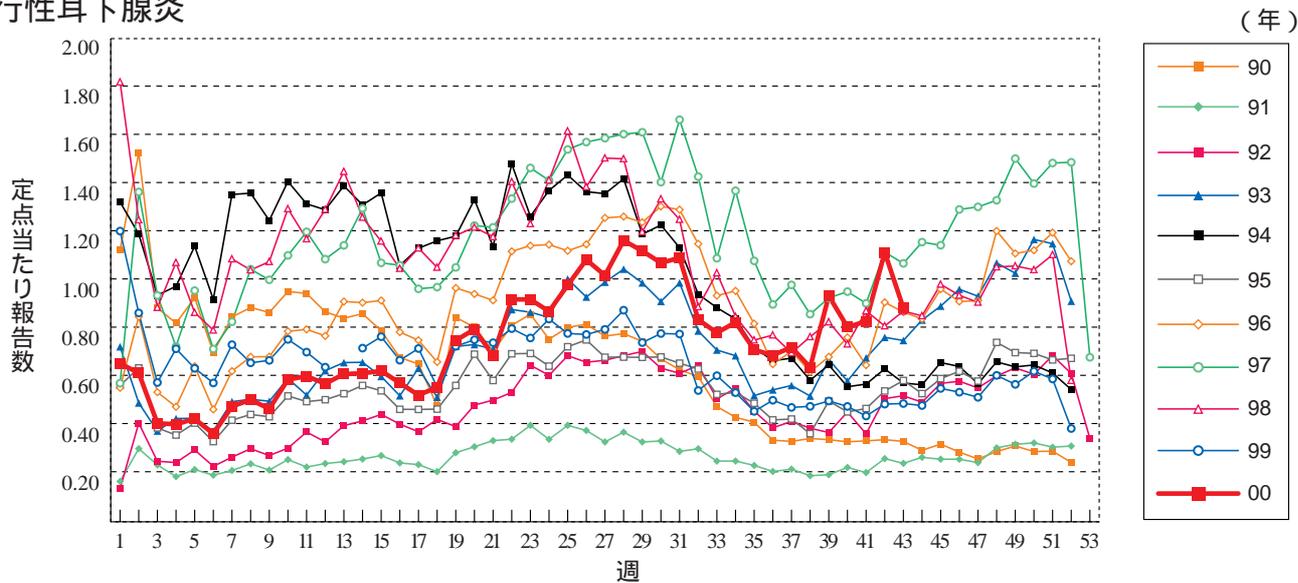
ヘルパンギーナ



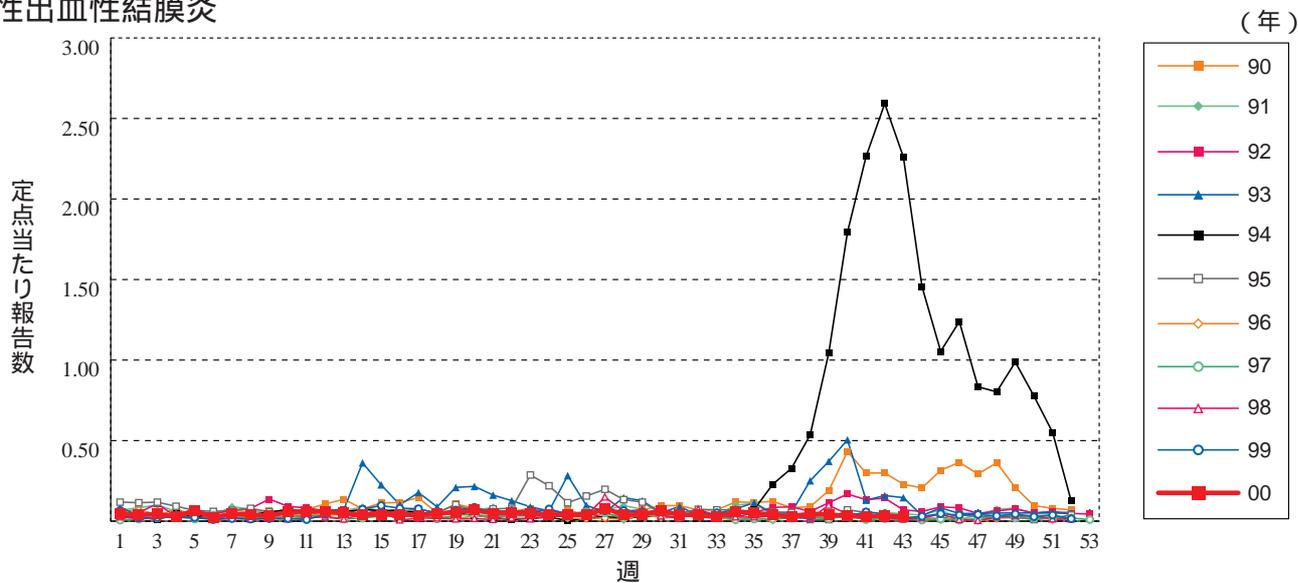
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



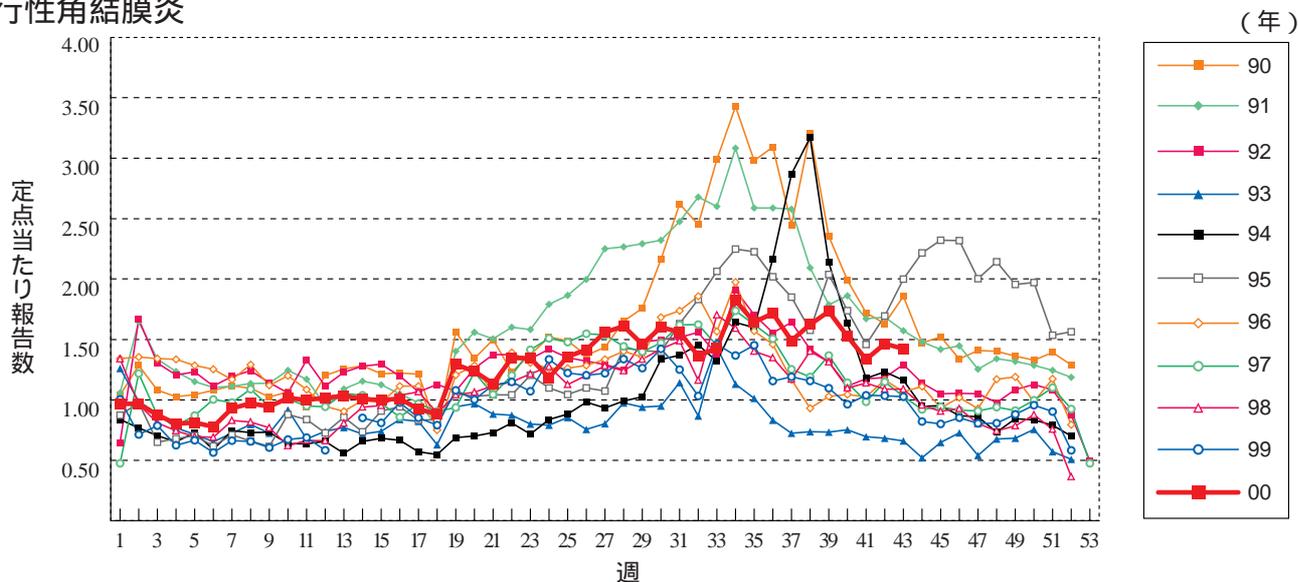
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

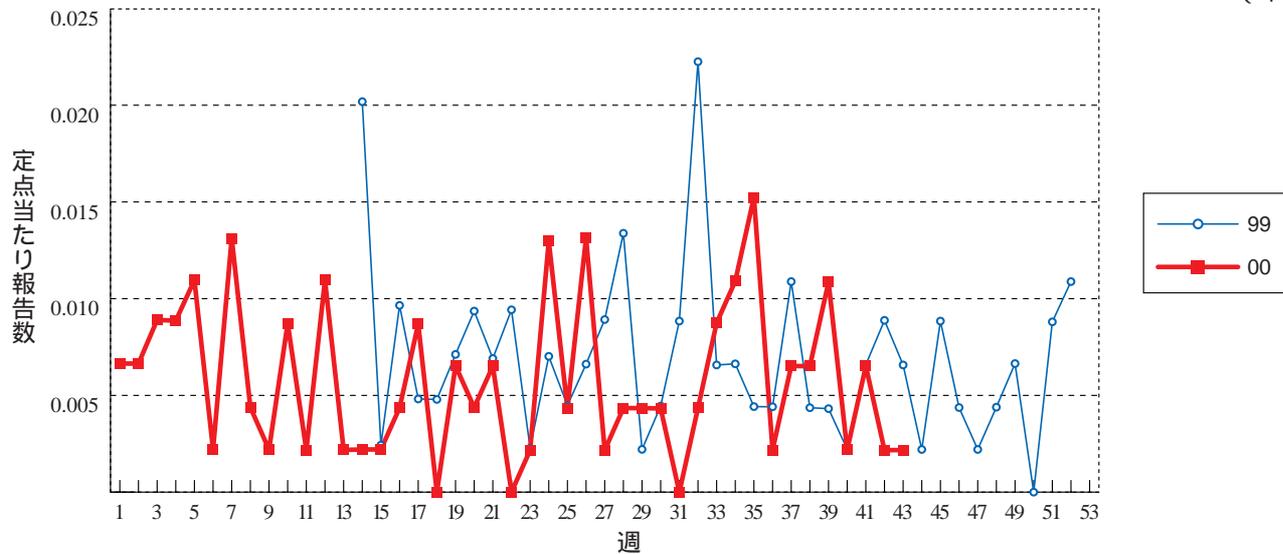


流行性角結膜炎



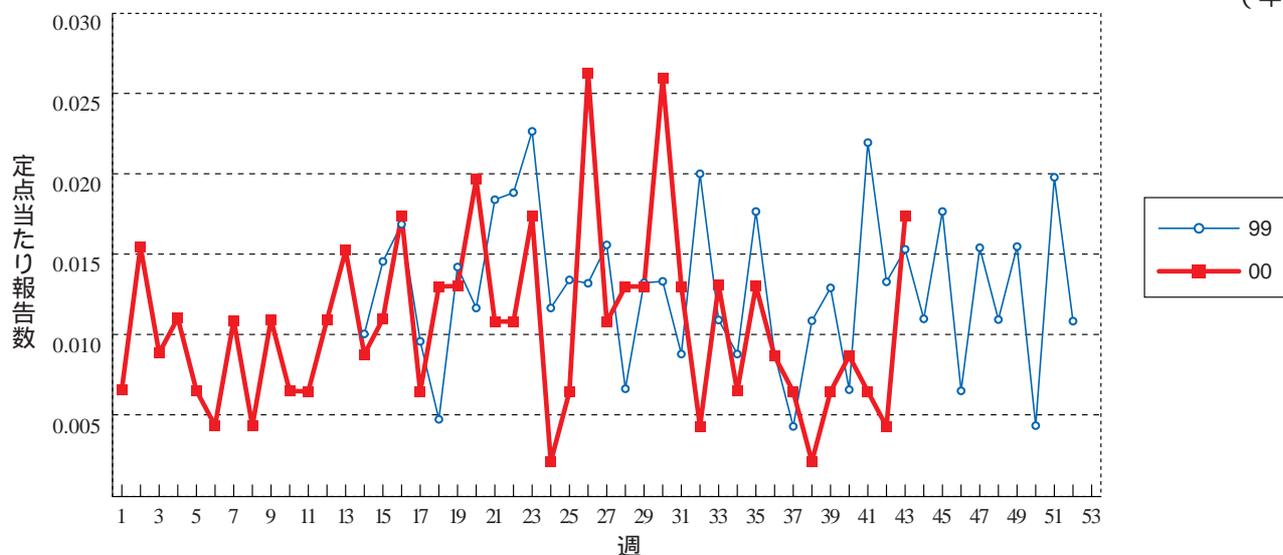
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



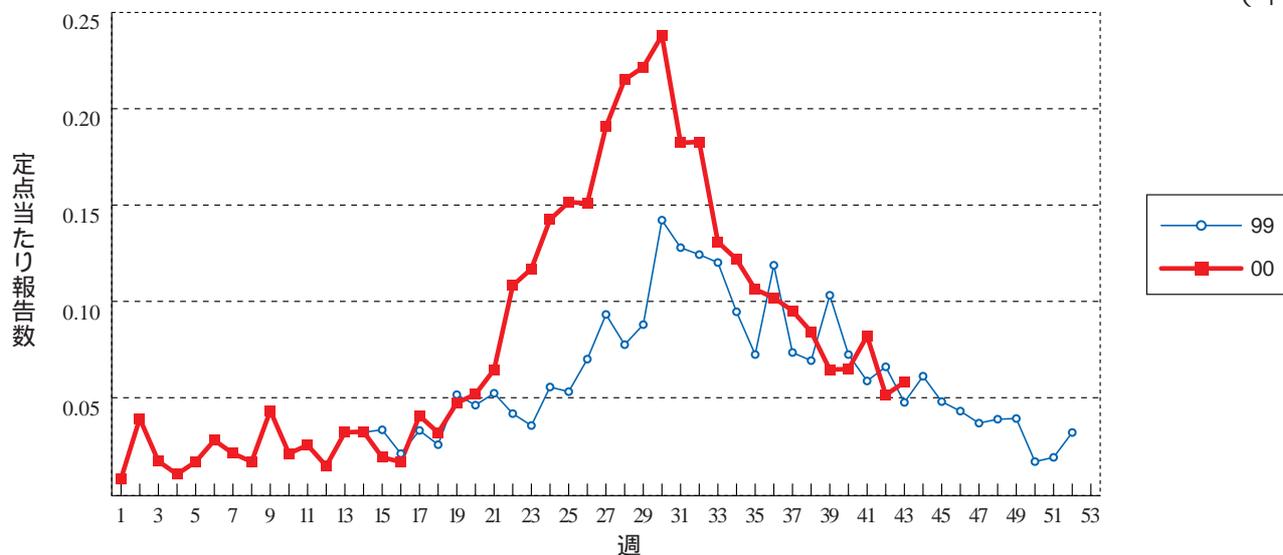
細菌性髄膜炎

(年)



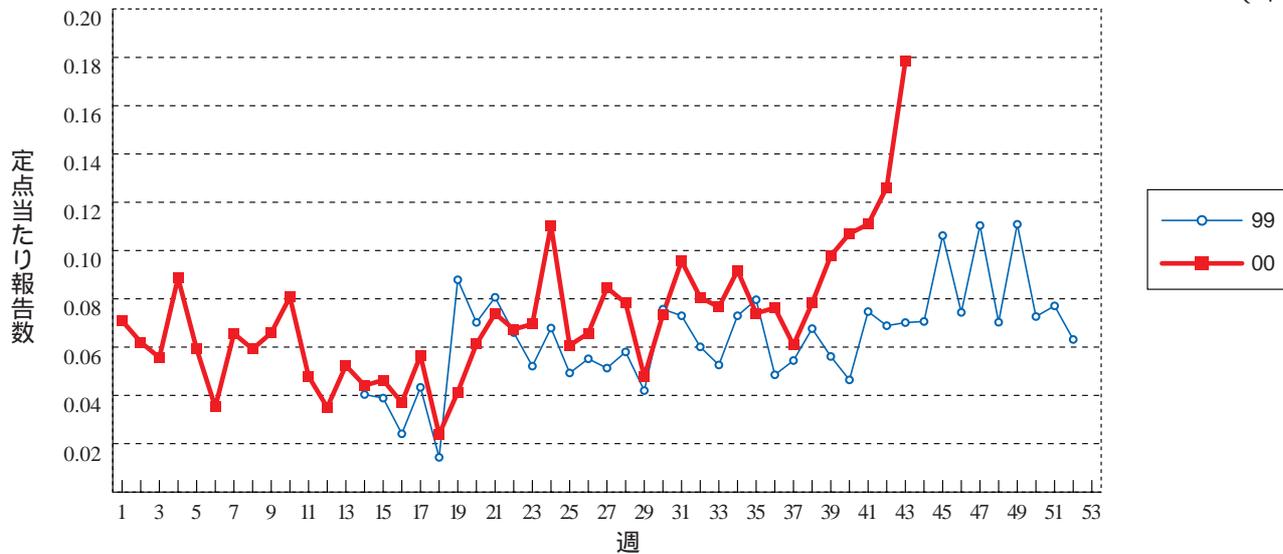
無菌性髄膜炎

(年)



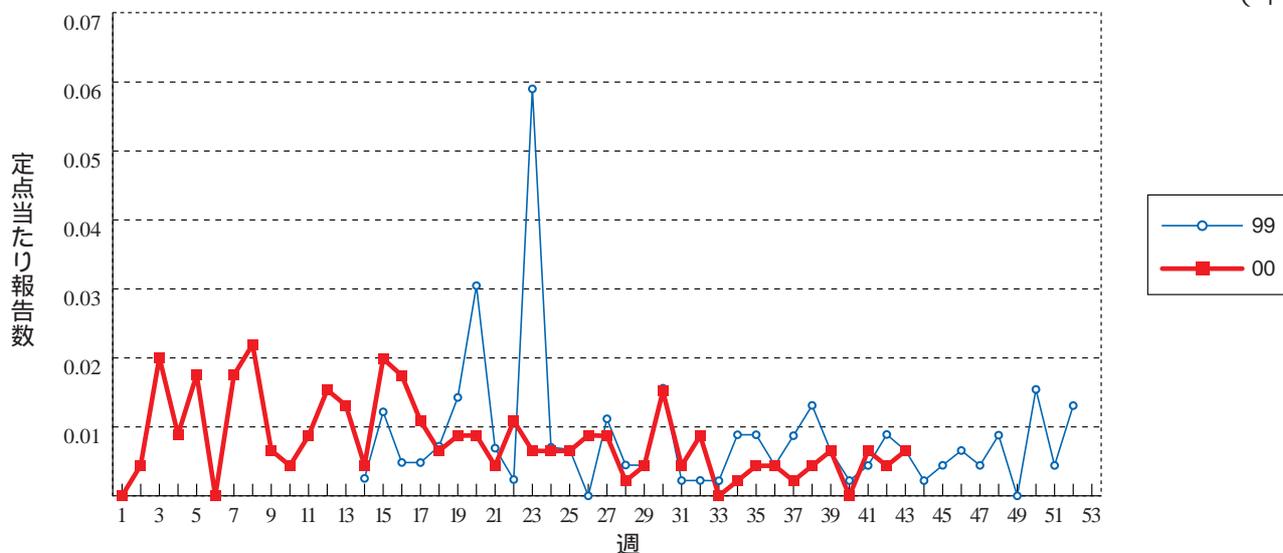
マイコプラズマ肺炎

(年)



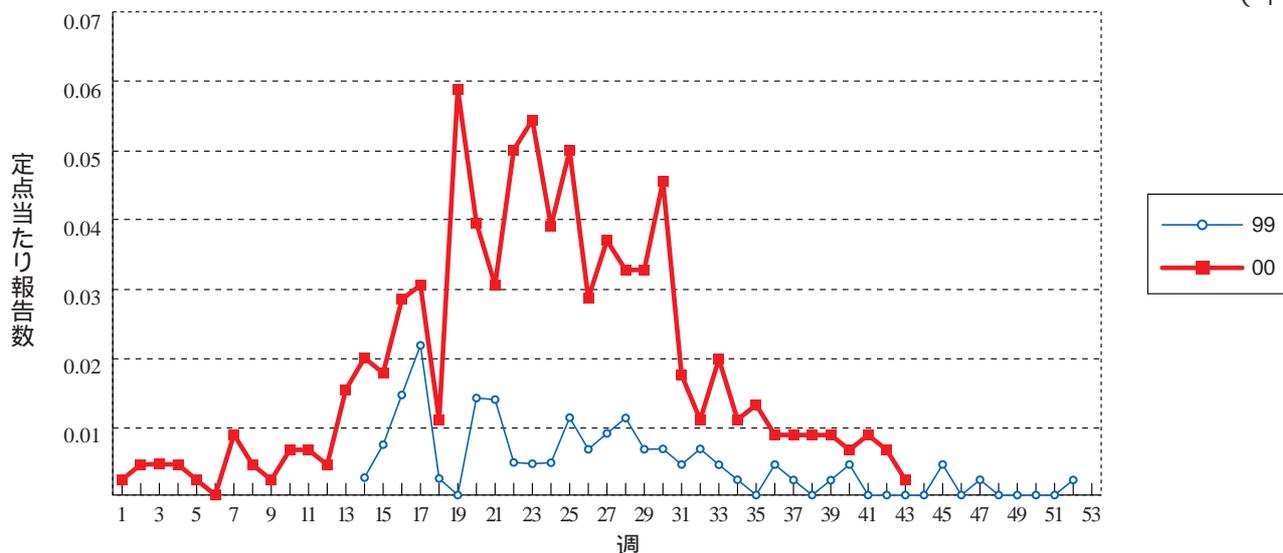
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





43週のデータ

注)表中の報告数は11月2日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年43週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48	50	698	-	75	1	18		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	19	-	3	-	-		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	2	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	3	-	-		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	25	-	4	-	4		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	126	-	14	-	7		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	52	-	4	-	-		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	1	-	1		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	13	-	4	-	-		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	42	-	5	1	1		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	1		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	20	-	2	-	-		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	57	-	7	-	4		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	27	-	7	-	-		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	14	-	3	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	8	-	1	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12	-	1	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	13	-	-	-	-		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	48	-	-	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	30	-	1	-	-		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	18	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-		

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年43週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	74	3158	1	298	-	18	-	-	-	14	-	-	7	822
北海道	-	-	-	-	2	91	-	5	-	17	-	-	-	-	-	-	1	13
青森県	-	-	-	-	-	38	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	-	-	107	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	2	55	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
秋田県	-	-	-	-	2	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
山形県	-	-	-	-	-	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	1	19	1	4	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	1	30	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	1	-	15	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	27	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
埼玉県	-	-	-	-	1	87	-	11	-	-	-	-	-	2	-	-	-	10
千葉県	-	-	-	-	1	94	-	13	-	-	-	-	-	2	-	-	1	13
東京都	-	-	-	-	11	282	-	74	-	-	-	-	-	3	-	-	-	87
神奈川県	-	-	-	-	-	154	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	39
新潟県	-	-	-	-	-	19	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
富山県	-	-	-	-	1	49	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	1	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
福井県	-	-	-	-	-	14	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
長野県	-	-	-	-	3	29	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	27	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
静岡県	-	-	-	-	-	31	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35
愛知県	-	-	-	-	3	206	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
三重県	-	-	-	-	1	46	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	3	34	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
京都府	-	-	-	-	3	49	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
大阪府	-	-	-	-	6	312	-	47	-	-	-	-	-	1	-	-	-	91
兵庫県	-	-	-	-	9	174	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91
奈良県	-	-	-	-	-	29	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
和歌山県	-	-	-	-	2	38	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
鳥取県	-	-	-	-	1	28	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	4	93	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	29
広島県	-	-	-	-	1	110	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山口県	-	-	-	-	3	36	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
徳島県	-	-	-	-	1	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
香川県	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	-	-	-	22	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
高知県	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
福岡県	-	-	-	-	2	289	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
佐賀県	-	-	-	-	1	43	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	5	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	33	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
大分県	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
宮崎県	-	1	-	-	2	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
鹿児島県	-	-	-	-	-	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
沖縄県	-	-	-	-	1	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年43週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	15	-	-	-	3	2	75	-	39	8	625	-	1	3	75	-	-
北海道	-	7	-	-	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	4	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	40	-	-	1	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	16	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	32	-	-	1	6	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	-	49	-	-	1	3	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	9	-	4	3	245	-	1	-	13	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	37	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	4	-	-	-	-	-	4	-	2	-	17	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	3	2	19	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	39	-	-	-	8	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	5	-	17	-	-	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	3	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	3	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年43週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	13	-	1	-	-	9	243	-	15	2	25	-	6	-	-	2	613
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
青森県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
宮城県	1	1	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
山形県	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	15
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	10	-	-	2	8	-	-	-	-	-	20
東京都	-	1	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	91
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	1	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	2	-	-	-	-	4	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	24
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	104
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	-	38
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	10
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	4	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
広島県	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	21
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	3
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	51
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	25	-	-	-	3	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年43週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	76	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	4	133	-	9	1	127
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7	-	-	-	4
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4
千葉県	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
東京都	-	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	57	-	-	-	7
神奈川県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	29
愛知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1	6
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	3
兵庫県	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年43週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	131	0.03	187	0.06	2870	0.96	7099	2.37	2588	0.86	3176	1.06	462	0.15	2423	0.81	61	0.02
北海道	1	0.00	9	0.06	225	1.55	273	1.88	243	1.68	71	0.49	28	0.19	78	0.54	3	0.02
青森県	2	0.03	-	-	17	0.41	30	0.73	109	2.66	59	1.44	5	0.12	21	0.51	1	0.02
岩手県	1	0.02	-	-	35	0.92	39	1.03	41	1.08	36	0.95	14	0.37	32	0.84	-	-
宮城県	2	0.02	-	-	68	1.15	189	3.20	79	1.34	149	2.53	8	0.14	59	1.00	2	0.03
秋田県	-	-	2	0.06	27	0.77	65	1.86	28	0.80	44	1.26	-	-	21	0.60	1	0.03
山形県	2	0.04	-	-	49	1.69	56	1.93	65	2.24	33	1.14	7	0.24	34	1.17	-	-
福島県	-	-	-	-	32	0.68	239	5.09	37	0.79	82	1.74	4	0.09	43	0.91	2	0.04
茨城県	1	0.01	-	-	51	0.71	147	2.04	56	0.78	58	0.81	10	0.14	42	0.58	2	0.03
栃木県	-	-	-	-	41	0.91	52	1.16	25	0.56	90	2.00	2	0.04	30	0.67	2	0.04
群馬県	-	-	-	-	85	1.37	118	1.90	64	1.03	12	0.19	10	0.16	40	0.65	1	0.02
埼玉県	15	0.06	2	0.01	200	1.25	513	3.21	104	0.65	125	0.78	49	0.31	125	0.78	3	0.02
千葉県	2	0.01	6	0.05	153	1.16	251	1.90	76	0.58	305	2.31	39	0.30	102	0.77	4	0.03
東京都	9	0.05	6	0.04	63	0.44	354	2.49	48	0.34	140	0.99	25	0.18	73	0.51	-	-
神奈川県	12	0.04	4	0.02	107	0.52	371	1.81	152	0.74	88	0.43	33	0.16	168	0.82	-	-
新潟県	-	-	12	0.20	106	1.77	110	1.83	80	1.33	69	1.15	6	0.10	55	0.92	-	-
富山県	2	0.04	-	-	51	1.76	85	2.93	30	1.03	43	1.48	-	-	24	0.83	-	-
石川県	-	-	1	0.03	16	0.55	149	5.14	20	0.69	56	1.93	6	0.21	20	0.69	-	-
福井県	-	-	1	0.05	28	1.33	116	5.52	37	1.76	84	4.00	1	0.05	13	0.62	-	-
山梨県	17	0.41	-	-	22	0.88	27	1.08	9	0.36	66	2.64	4	0.16	14	0.56	-	-
長野県	-	-	5	0.10	65	1.25	129	2.48	64	1.23	96	1.85	8	0.15	40	0.77	-	-
岐阜県	7	0.08	-	-	68	1.28	63	1.19	39	0.74	56	1.06	9	0.17	36	0.68	-	-
静岡県	3	0.02	3	0.03	48	0.56	210	2.44	44	0.51	228	2.65	8	0.09	88	1.02	2	0.02
愛知県	2	0.01	1	0.01	178	0.98	313	1.72	119	0.65	324	1.78	32	0.18	169	0.93	-	-
三重県	1	0.01	5	0.11	40	0.89	172	3.82	39	0.87	37	0.82	3	0.07	52	1.16	3	0.07
滋賀県	-	-	1	0.03	52	1.73	63	2.10	19	0.63	18	0.60	3	0.10	18	0.60	-	-
京都府	4	0.03	7	0.09	40	0.53	222	2.92	51	0.67	35	0.46	6	0.08	39	0.51	-	-
大阪府	2	0.01	19	0.10	144	0.75	366	1.92	93	0.49	34	0.18	15	0.08	135	0.71	8	0.04
兵庫県	9	0.05	9	0.07	108	0.81	392	2.95	128	0.96	101	0.76	13	0.10	148	1.11	2	0.02
奈良県	-	-	-	-	20	0.57	63	1.80	53	1.51	19	0.54	-	-	24	0.69	-	-
和歌山県	1	0.02	1	0.03	32	1.03	27	0.87	25	0.81	8	0.26	1	0.03	27	0.87	2	0.06
鳥取県	-	-	4	0.21	107	5.63	77	4.05	24	1.26	35	1.84	-	-	20	1.05	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	23	1.00	18	0.78	80	3.48	1	0.04	15	0.65	-	-
岡山県	-	-	6	0.11	38	0.70	180	3.33	51	0.94	40	0.74	6	0.11	48	0.89	1	0.02
広島県	2	0.02	4	0.05	65	0.87	250	3.33	50	0.67	34	0.45	9	0.12	46	0.61	5	0.07
山口県	2	0.03	10	0.20	73	1.49	134	2.73	47	0.96	36	0.73	3	0.06	63	1.29	-	-
徳島県	-	-	11	0.48	21	0.91	55	2.39	33	1.43	16	0.70	3	0.13	29	1.26	3	0.13
香川県	-	-	4	0.13	13	0.41	41	1.28	14	0.44	30	0.94	15	0.47	27	0.84	2	0.06
愛媛県	-	-	11	0.28	41	1.05	169	4.33	23	0.59	51	1.31	2	0.05	51	1.31	-	-
高知県	-	-	4	0.13	43	1.39	23	0.74	6	0.19	49	1.58	-	-	9	0.29	4	0.13
福岡県	-	-	11	0.14	70	0.89	283	3.58	74	0.94	43	0.54	24	0.30	74	0.94	2	0.03
佐賀県	-	-	1	0.04	17	0.74	20	0.87	42	1.83	14	0.61	15	0.65	33	1.43	-	-
長崎県	-	-	-	-	12	0.27	64	1.45	24	0.55	12	0.27	4	0.09	26	0.59	1	0.02
熊本県	2	0.02	5	0.10	33	0.67	97	1.98	64	1.31	32	0.65	11	0.22	63	1.29	1	0.02
大分県	-	-	9	0.25	62	1.72	101	2.81	31	0.86	32	0.89	8	0.22	32	0.89	-	-
宮崎県	-	-	9	0.24	43	1.16	177	4.78	42	1.14	63	1.70	9	0.24	49	1.32	1	0.03
鹿児島県	22	0.22	4	0.07	47	0.78	165	2.75	45	0.75	11	0.18	3	0.05	56	0.93	3	0.05
沖縄県	8	0.14	-	-	14	0.41	36	1.06	23	0.68	32	0.94	-	-	12	0.35	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年43週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	42	0.01	841	0.28	177	0.06	2652	0.88	17	0.03	897	1.42	1	0.00	8	0.02	27	0.06
北海道	4	0.03	22	0.15	17	0.12	209	1.44	-	-	21	0.72	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	2	0.05	-	-	37	0.90	-	-	10	0.91	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	6	0.16	-	-	11	0.29	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	10	0.17	1	0.02	16	0.27	-	-	10	0.91	-	-	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	12	0.34	-	-	3	0.09	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	22	0.76	-	-	12	0.41	-	-	3	0.38	-	-	-	-	1	0.11
福島県	-	-	5	0.11	1	0.02	13	0.28	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	6	0.08	2	0.03	48	0.67	-	-	62	3.88	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	-	-	2	0.04	15	0.33	-	-	19	1.58	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	5	0.08	-	-	76	1.23	2	0.14	45	3.21	-	-	1	0.10	1	0.10
埼玉県	2	0.01	25	0.16	5	0.03	260	1.63	1	0.03	54	1.50	-	-	-	-	-	-
千葉県	2	0.02	5	0.04	-	-	133	1.01	2	0.06	67	1.91	-	-	-	-	2	0.15
東京都	2	0.01	16	0.11	7	0.05	104	0.73	-	-	25	1.79	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	18	0.09	9	0.04	193	0.94	2	0.05	55	1.31	-	-	1	0.09	-	-
新潟県	-	-	2	0.03	-	-	70	1.17	-	-	9	1.00	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	25	0.86	2	0.07	6	0.21	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.20
石川県	3	0.10	11	0.38	-	-	8	0.28	-	-	8	1.14	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.05	3	0.14	-	-	39	1.86	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.20
山梨県	1	0.04	-	-	2	0.08	6	0.24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	21	0.40	-	-	15	0.29	1	0.10	18	1.80	-	-	1	0.09	1	0.09
岐阜県	-	-	5	0.09	-	-	65	1.23	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	32	0.37	1	0.01	124	1.44	-	-	23	1.10	-	-	-	-	2	0.22
愛知県	1	0.01	48	0.26	8	0.04	162	0.89	-	-	37	1.06	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	19	0.42	1	0.02	58	1.29	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
滋賀県	3	0.10	-	-	3	0.10	21	0.70	1	0.14	18	2.57	-	-	-	-	2	0.33
京都府	-	-	6	0.08	4	0.05	50	0.66	-	-	28	1.56	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	3	0.02	61	0.32	10	0.05	143	0.75	-	-	33	0.63	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.02	13	0.10	8	0.06	96	0.72	-	-	29	0.83	-	-	1	0.07	1	0.07
奈良県	1	0.03	2	0.06	19	0.54	18	0.51	-	-	17	1.89	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	27	0.87	5	0.16	13	0.42	-	-	7	1.75	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	4	0.21	-	-	10	0.53	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1.40
島根県	-	-	9	0.39	-	-	24	1.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	10	0.19	1	0.02	13	0.24	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	15	0.20	4	0.05	73	0.97	-	-	13	0.65	-	-	-	-	2	0.10
山口県	1	0.02	16	0.33	-	-	118	2.41	3	0.33	7	0.78	-	-	-	-	1	0.13
徳島県	-	-	3	0.13	1	0.04	5	0.22	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	26	0.81	-	-	28	0.88	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	101	2.59	-	-	14	0.36	1	0.14	16	2.29	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	18	0.58	26	0.84	15	0.48	-	-	5	1.67	-	-	1	0.14	-	-
福岡県	1	0.01	14	0.18	6	0.08	77	0.97	-	-	62	3.44	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	7	0.30	2	0.09	44	1.91	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	20	0.45	1	0.02	13	0.30	4	0.50	26	3.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	11	0.22	-	-	117	2.39	-	-	38	4.22	-	-	1	0.07	1	0.07
大分県	-	-	50	1.39	11	0.31	19	0.53	-	-	9	1.80	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	79	2.14	1	0.03	22	0.59	-	-	11	2.75	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	2	0.03	27	0.45	14	0.23	21	0.35	-	-	2	0.40	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	2	0.06	2	0.06	3	0.09	15	0.44	-	-	24	2.40	1	0.14	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年43週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	82	0.18	3	0.01	1	0.00
北海道	15	0.65	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	8	0.67	1	0.08	-	-
秋田県	13	1.63	-	-	-	-
山形県	2	0.22	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	2	0.33	2	0.33	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.40	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	-	-	-	-
長野県	1	0.09	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.11	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	1	0.17	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.07	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	6	1.20	-	-	-	-
広島県	1	0.05	-	-	-	-
山口県	3	0.38	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	4	0.67	-	-	-	-
高知県	2	0.29	-	-	-	-
福岡県	3	0.20	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第43号 平成12年11月10日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生省保健医療局結核感染症課
 厚生省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhw.go.jp/>
 <厚生省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。